



第47号

梅苑会報



福島県立福島高等学校

五年目の春 （新たな始まり）



昨年のこのページで新校舎完成の報告をさせていただいたが、その後もその他の工事が続き、ようやく学校がもとの姿に戻ろうとしている。

一昨年八月の新校舎完成に続けてすすめられた、第二棟と第一棟の耐震補強工事が間もなく終了する。工事は最終段階に入り、震災後から仮設校舎が建てられ、その後も臨時の駐輪場や工事の資材置き場として利用されたテニスコートが五年ぶりに復活した。生徒昇降口前もアスファルト舗装され、ここにも簡易のテニスコート一面が整備された。

八月二九・三〇日に行われた梅苑祭は新校舎を使用しての初めての一般公開となり、多くの来場者で賑わった。これまでよりも広めの教室、木の温もりを感じる廊下や階段、窓からの眺望など、新しい福島高校を肌で感じていただけたようである。

一昨年二月、太宰府天満宮から恵与され

『同窓会WEBサイト開設にあたり』

この度、同窓会「梅苑会」のWEBサイトを開設することとなりました。同窓会関係のWEBサイトとしては、既に関東梅苑会とみやぎ梅苑会が開設されており、それぞれの地域で同窓生の情報を発信し、多くの同窓生が利用されています。

福島高校関連では、Facebookに「福島県立福島高校」のページがあり、WEBサイト開設の前段階として「梅苑会」のページも既に立ち上げ、多くの同窓生の方々に登録いただい

ております。

このサイトが、世代を超え、様々な分野で活躍されている同窓生の情報交換の場として、さらに福島を取り巻く状況など、「生きた情報」発信の一助となればと考えております。

今後、担当者が同窓生の方々に訪問・取材し、記事を掲載していきたいと考えております。

各梅苑会のサイトは次の通りです。

福島高校同窓会	http://www.baienkai.org
関東梅苑会	http://www.kantobaienka.ne.jp/
みやぎ梅苑会	http://www.geocities.jp/miyagibai/

情報発信に協力いただける方は、下記担当までご一報ください。

WEB担当：(株)MC47WEBサービス
板垣隆 mail : takashi01@mc47.com

column

『志乃夫草』しのぶ草 続報

昨年このコーナーで紹介したように校友会誌（生徒会誌）『志乃夫草』のデータ化が、前回までに完成していた第8号〜第45号に第1号〜第6号を加え、DVD版・ブルーレイ版で制作し完成する事が出来ました。さっそく昨年度同窓会に購入していただいた耐火金庫に保存いたしました。

データ化は、前回同様に福島映像企画にお願いし、残す欠本は、第7号のみとなりました。再度同窓会会員や周りの方々にお声をかけていただき、是非探し出していただければと思います。



第7号をお持ちの方はいませんか？

同窓生 吉井忠先生 絵画作品の 保護について

本校正面玄関に掲げられている、主体美術協会創設会員である吉井忠先生（中24回卒）の作品「石のある村（金谷川）」（第5代同窓会長 齋藤兆昇氏寄贈）に、福島県立美術館学芸課長の伊藤さんからアドバイスをいただき、アクリルガラスを額に入れました、これで当面日光から保護する事が出来ます。



作品保護をし、展示しています

た五本の梅の若木も、しっかりと福島高校の地に根付き、春には五種類の美しい花を開かせた。

あれから五年、ようやくもとの姿に戻ろうとしている福島高校、これからの新たな始まりに期待したい。



写真提供…高橋泰洋氏



同窓会会長
渡辺 健寿
(高校第17回卒)

「新任ごあいさつ」

このたび、川崎眞二前会長のご退任により、今年1月30日の臨時役員会において、はからずも福島高等学校同窓会会長に選任されました。

長い歴史と伝統のある福島高等学校同窓会の会長職は身に余る重責であり、重圧を感じていますが、関係各位のご支援、ご協力をいただきながら何とか職責を果たしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

福島高等学校同窓会は、川崎前会長のすばらしいリーダーシップのもと、年々会員相互の親睦を深めながら活発な活動を展開して参りました。

とくに一昨年、縁あって太宰府天満宮から5本の梅を恵与賜ったことは、誠に意義深い行事であったと思います。2月28

日の植樹式の後、26年秋、27年春、秋には太宰府天満宮から造園士の方にお出でいただき、梅の木の剪定、管理等をしていただきました。まさに梅高福島高校のシンボルとして大切に育てながら、太宰府天満宮との交流を続けて参りたいと存じます。

先の総会において「太宰府梅基金」の設立および今年度の予算をご承認いただきましたので、太宰府梅基金を活用しながら交流の実を挙げていきたいと考えております。今年2月11日から13日にかけて本校から太宰府天満宮へお礼参りとして参上し、本校にちなんだ命名された梅「福高の暁」の若木を献上いたしました。「福高の暁」が本校と太宰府天満宮とを結ぶかけ橋として太宰府天満宮の境内に大きく育つことを楽しみにして

おります。

また、梅苑会ホームページの立ち上げについてもご承認いただきました。今年2月から運用を開始しましたが、同窓会からの情報発信、会員相互の情報共有をきめ細やかに進めていきたいと考えております。

川崎前会長が同窓会の関係強化、会員増強のため常々提唱されておられたのが、同期生のグループに加え、職域からのグループ、部活OBからのグループなど、縦・横・斜めの糸を織り込み強固な組織にするということです。この点は、私としても川崎前会長のご意向を引き継いで実践していきたいと決意しているところです。

関係各位のご支援、ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

福高 同窓会総会

平成27年度「福高同窓会総会」が11月27日(金)18時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って佐藤祥一氏(高校第21回卒)による、「物書き春吉の 文字にならない『裏話』のいろいろ」と題した記念講演がありました。佐藤氏は春吉省吾のペンネームで春・夏・秋・冬の長編時代小説「四季四部作」を執筆され、平成26年には幕末福島藩を舞台にした四部作の第二作『春のみなも』上・下を上梓されました。現在も福島・伊達・月館などにまつわる長編・中編小説を取材執筆中で、その完成が待たれるところです。総会では、昨年承認され今年創設された「太宰府梅基金」の報告、同窓会のホー

ムページの立ち上げなどが承認されました。また、同窓会会長川崎眞二氏が諸事情により急遽退任されることになり、一月の臨時役員会での後任会長の指名を持って新会長を選出することが承認されました。1月30日の臨時役員会において、同副会長の渡辺健寿氏(高17回)が新会長に選出されました。川崎前会長のこれまでの同窓会発展への御尽力に心から感謝申し上げるとともに、渡辺新会長の下での同窓会のますますの発展をめざしていききたいと思っております。次年度の福高同窓会総会は、平成28年11月25日(金)18時より、福島グリーンパレスで行われます。会員の皆様多数のご参加をお待ちしております。なお、チケットに関しては、同窓会事務局までお問い合わせください。



平成28年度予算書（27年9月1日～28年8月31日）

平成28年度 一般会計予算書

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,394,792	
(2)入会金	945,000	卒業生（315名×3,000円）
(3)年会費	2,915,000	卒業生（315名×1,000円） 会員（約1,300名×2,000円）
(4)雑収入	100,000	利息、寄付金等
(5)繰入金	0	
合 計	6,354,792	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
1.事業費	3,580,000	
(1)総会費	600,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,600,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	
2.運営費	855,000	
(1)会議費	250,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	5,000	振り込み手数料他
(3)交際費	150,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員饗別、その他
(4)慶弔費	100,000	
(5)通信費	50,000	切手、葉書代
(6)旅 費	250,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(7)雑 費	50,000	
3.会員名簿管理費	710,000	平成27年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,209,792	
合 計	6,354,792	

項目間の流用をお認め願います。

平成28年度 母校後援会費予算書

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	9,868,082	
(2)会費	1,500,000	卒業生(315名×1,000円)、会員(約750名)
(3)雑収入	1,500	利子等
合 計	11,369,582	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,000,000	母校への助成
(2)部活動助成	700,000	全国大会出場への激励金
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	
(4)予備費	9,169,582	
合 計	11,369,582	

項目間の流用をお認め願います。

平成28年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書(特別会計)

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,698,226	
(2)積立金	500,000	母校後援会会計より
(3)雑収入	350	利子等
合 計	3,198,576	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	0	
(2) 次期繰越金	3,198,576	
合 計	3,198,576	

平成28年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計予算書

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,384,994	
(2)同窓会梅基金	1,000,000	同窓会梅基金より
(3)雑収入	50	利息、寄付金等
合 計	2,385,044	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)飛び梅接待関係	600,000	交際費、接待費、諸経費等
(2)飛び梅管理費	40,000	肥料・消毒代等
(3) 予備費	1,745,044	
合 計	2,385,044	

項目間の流用をお認め願います。

平成27年度決算書（26年9月1日～27年8月31日）

平成27年度 一般会計決算書

収入決算額・・・7,090,185円 支出決算額・・・4,695,393円 次年度へ繰越額・・・2,394,792円

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	2,467,938	2,467,938	
(2)入会金	945,000	954,000	卒業生（318名×3,000円）
(3)年会費	3,330,000	3,408,000	卒業生(318名×1,000円) 会員(1,123名)
(4)雑収入	100,000	260,247	オリジナルタオル売り上げ、 旅費返金、利息等
(5)繰入金	0	0	
合 計	6,842,938	7,090,185	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,430,000	3,511,241	
(1)総会費	550,000	596,325	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,500,000	2,633,936	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	280,980	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	810,000	482,152	
(1)会議費	200,000	226,533	H26年第2回、H27年第1回役員会
(2)事務諸費	10,000	4,876	振り込み手数料、タオル配送料
(3)交際費	150,000	83,240	関東・みやぎ梅苑会参加費、転出者饗別
(4)慶弔費	100,000	0	
(5)通信費	50,000	26,023	往復葉書、切手
(6)旅 費	250,000	141,480	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	0	
3.会員名簿管理費	800,000	702,000	平成26年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,802,938	0	
合 計	6,842,938	4,695,393	

平成27年度 母校後援会費決算書

収入決算額・・・11,829,585円 支出決算額・・・1,961,503円 次年度へ繰越額・・・9,868,082円

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	10,371,049	10,371,049	
(2)会費	1,900,000	1,457,000	卒業生（318名×1,000円） 会員（753名）
(3)雑収入	2,042	1,536	利息
合 計	12,273,091	11,829,585	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	684,699	耐火金庫、オリジナルタオル・クリアファイル等
(2)部活動助成	300,000	776,804	全国大会出場助成等
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	500,000	
(4)太宰府梅基金積み立て	200,000	0	
(5)予備費	10,073,091	0	
合 計	12,273,091	1,961,503	

平成27年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書(特別会計)

収入決算額・・・2,698,226円 支出決算額・・・0円 次年度へ繰越額・・・2,698,226円

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰越金	2,197,881	2,197,881	
(2)積立金	500,000	500,000	27年度分
(3)雑収入	250	345	預金利息
合 計	2,698,131	2,698,226	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1) 修繕費	0	0	梅苑会館修繕費
合 計	0	0	

平成27年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計決算書

収入決算額・・・1,532,433円 支出決算額・・・147,439円 次年度へ繰越額・・・1,384,994円

1.収入の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰越金	389,384	389,384	
(2)積立金	200,000	0	同窓会後援会より
(3)同窓会梅基金	0	1,143,000	同窓会会員（739名）
(4)雑収入	100,000	49	利息
合 計	599,384	1,532,433	

2.支出の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)飛び梅接待関係	20,000	142,039	旅費、接待費、諸経費
(2)飛び梅管理費	70,000	5,400	消毒代
(3) 予備費	509,384	0	
合 計	599,384	147,439	

関東梅苑会だより

3回目の「福島フェス」 復興に賭ける同窓生の思い



2015年10月10日・11日、六本木ヒルズアリーナで3回目になる福島フェス2015が開催され、フード系12店、物販系16店、ワークショップ1店が出店し、13組の出演アーティストがパフォーマンスを披露。生憎の天気の中、2日間で約2万人が来場し大盛況を収めました。

このイベントの企画・運営は、高48回（平成8年）卒の8名の元福高生が中心となっています。リーダー役の爲永泰之さんにお話を伺いました。

―そもそものきっかけ

「福島フェス」の企画・運営の母体は爲永さんが代表を務めるNPO法人b.e.c.o.がベースになっています。日々、デザインやメディアの仕事に追われる中、「福島の高さをもっと広く伝えたい」「福島をきっかけよく見せたい」という思いが募り、2012年4月にNPOを設立。本業の仕事をこなしながら故郷のための事業展開を試行錯誤しているさなかに、あの3・11の大震災が起き、そして原発問題に直面したと言います。

―第1回目・ミニフェス開催

2013年7月、代々木公園を会場として例年行われていたイベント「アースガーデン夏」に参加。このイベントの一角を借りて「福島フェス・ミニ」を立ち上げ、その運営をすることとなりました。

「アースガーデン夏」の主催者は震災後、福島の復興に取り組んでおり、福島フェスのメンバーの想いに共感して福島フェス・ミニが実現しました。また、風評被害対策の一環として県の後押しもありました。人が多く集まる場所です。自分たちが本当に良いと思う福島の農産物や物産品をPRすることが一番の目的でした。

確かに、震災が起きて直ぐに、マスコミやネット上で福島県産の農産物・水産物、あらゆる生産物

のことが一緒に取り上げられ、今でも風評被害が止まないことは悲しいことです。

―フェスへの強い思い

福島からフード・物産品など合計19店が出店した「福島フェス・ミニ」が無事終わりました。様々な形で連携し運営してきた高48回のメンバーが話し合い、次の年（2014年）は単独でイベントを開催することを決め、仲間の伝手で六本木ヒルズアリーナが借りられることになりました。

イベントに来る人のわくわく感や福島からの出店者やメディアへのインパクト、集まる客層を考え、お台場でも有楽町でもなく、六本木でやりたい、というメンバーの強い思いが一致したそうです。

単独開催なので、後援やスポンサーを募り、FB立ち上げやポスター、チラシの作成などの準備は大変でしたが、福島から合計22店が出店し、第2回目となる「福島

フェス2014」が開催され、大勢の来場者で賑わいました。

オープンテラスの六本木ヒルズアリーナは、会場全体に開放感が漂い、ステージのパフォーマンスを見ながら、故郷のお酒やおつまみを楽しむには絶好の空間です。若者たちに福島復興の気持ちを忘れないで欲しい、というメンバーの思いがしっかりと実ったイベントでした。

―そして次回

こうして爲永さんを中心とした高48回の仲間たちの協力と大変な苦労によって、3回の福島フェスが成功裏に執り行われてきました。しかし、メンバーにはそれぞれ本業があり、通常業務で忙しく働きながら3回のイベントに携わっています。それでも第4回となる福島フェス2016の開催も予定しているとのこと。もし開催されることになったら、是非参加して都会の中で、故郷福島を感じてみてください！



福島フェアを実行する高48回のメンバー。左から2番目がRAG FAIRの引地洋輔さん、左から3番目が爲永泰之さん。

W杯ラグビーは釜石で開催 東北復興を世界に発信

ワールドカップ日本代表の活躍で人気が高まるラグビー。福高から早大で活躍し、現在「釜石シーウェイブス」（岩手県釜石市）でプレーする菅野朋幸さん（高55回卒）に、今年の抱負と復興への思いをうかがった。



仕事との両立と
地域共生がチームの魅力

―選手として「釜石シーウェイブスRFC」でのプレーを選んだ理由は何？

新日本製鉄（現新日鉄住金）釜石製鉄所でしたっけと仕事をしながら、歴史あるチームでプレーしたかったことが理由です。釜石シーウェイブスの前身は、「新日鉄釜石」という日本選手権で7連覇した強豪チームで、2001年にクラブチームとして設立され、本格的な再出発を図っていました。なにより従来型の企業スポーツではなく地域共生型のクラブチームとして運営する新しい取り組みが魅力でした。全国でも初めてとなるクラブチームでのトップリーグ昇格を目指して、今年も精一杯チャレンジしたいと考えています。

―今シーズンのチームの成績はいかがでしたか？

トップイーストでは8勝1敗で2位通過し、トップリーグ昇格に向けたトップチャレンジ2に進出しましたが2位に終わり、前年に続くトップチャレンジ1への進出ならず敗退という残念な結果になりました。個人



釜石シーウェイブスRFC所属
新日鉄住金 釜石製鉄所勤務
菅野 朋幸さん（高55回卒）

Profile

1984年（昭和59年）生まれ。本宮市立白沢中学ではサッカー部のキャプテンを務め、2000年に入学した福高でラグビーに出会う。全国高校ラグビー県大会は1年、2年が準優勝、主将だった3年はベスト4と惜しくも花園出場ならず。2003年、早稲田大学人間科学部入学。大学3年秋のシーズンからウイングとしてレギュラーに定着し、その後、関東大学ラグビー対抗戦優勝2回、大学選手権優勝、同準優勝。2007年、新日本製鉄（現新日鉄住金）に入社し、ラグビートップイーストのクラブチーム「釜石シーウェイブス」に所属。2014年には選手会長として、チームのトップチャレンジ出場とトップリーグ入れ替え戦出場。2015年から選手兼任アナリストを務める。31歳。

的にも選手として3試合に出場しましたが、出場する機会が少なかった悔しいシーズンでした。ただ、チームとしては新たに有力な選手が加入したことにより、かつてないほどの競争意識が生まれており、良い雰囲気を感じています。チームとしては次のシーズンに向けて活動をスタートさせております。個人としても試合への出場機会を増やし、チームの勝利に貢献できるように取り組んでいるところです。

―会社でのお仕事について教えてください

社会人になり丸9年を迎えようとしておりますが、現在は、釜石製鉄所の総務部工程業務室に所属しております。釜石製鉄所は現在、高炉・製鋼工程を休止しており、他の製鉄所から運

ばれた母材を圧延加工し、線材と呼ばれる製品を生産することが主な役割となります。私はその製品の「出荷総括」という業務を受け持っており、主にタイヤメーカーや自動車メーカー等のお客様に対して、船やトラックで出荷する計画を立てたり、調整したりしています。

―2011年3月の東日本大震災の時は？

釜石製鉄所で勤務中でした。当時は総務部で経理の業務を行っていましたが、震災直後は社員と家族の安否確認とその支援、また、本社はじめ全国の製鉄所などから送っていただいた救援物資の仕分けと管理に追われました。水道、電気、ガスのすべてが供給停止していたので、家族（奥様と当時1歳の長女）



Waseda University Rugby Football Club
早稲田大学時代の菅野さん(中央)

はラグビーのクラブハウスでしばらくの間、選手やスタッフとその家族と共に共同生活を続けました。みんなで食材を持ち寄って助け合うことができたので、自分も安心して会社に出社できました。子どもが小さかったので、いまでも当時の選手とスタッフにはとても助けていただいたと感謝しています。

中学まではサッカー部顧問の励ましで始める

— 高校入学後にラグビーを始めたそうですが、きっかけは？

中学までサッカーをしていたのでサッカー部も考えていたの

ですが、ラグビー部は高校から始めた部員が多く、顧問の佐藤弘樹先生の「頑張れば、頑張った分だけ自分の力になる」という励ましの言葉もあって入部しました。1年が決勝で平工、2年が決勝で平工、キャプテンで臨んだ3年は磐城に準決勝で敗れました。「花園出場」は実現できませんでした。メンバーも部の雰囲気も自由で楽しかったので、勉強はあまりしませんでした。ラグビーに思いつきで打ち込んだ3年間でした。

— 早稲田大学への進学について

現在、福島高校ラグビー部の顧問をしている松井暢彦さんが、私が1年のときの3年生のキャプテンで、1年浪人して早稲田大学に進学し、ラグビー部に所属していたこともあり、その縁も大いにありました。松井さんからは、早大受験のときもラグビー部の雰囲気や、準備すべきこと、入学してからのこと、人間関係など様々なアドバイスをいただきました。身近なところで親身になってお世話していただいたおかげで、進学へのモチベーションが高まって、なんとか合格することができたと感謝しています。

— 早稲田でのラグビーはいかがでしたか？

3年の秋のシーズン途中からレギュラーに定着することができました。実は1年の時からチャンスをもらっていたのにもかかわらず、そのチャンスをなかなか生かしきれないということが続いていた、悔しい思いもありました。早稲田も当時で部員が140人ぐらい。全国から「高校日本代表」クラスのメンバーが集まっています。そこにラグビーでは「無名」高校の一般受験組が競合するわけですが、周囲からの特別な期待やプレッシャーがない分、「やってやろうじゃないか」という思いで日々の練習に励みました。

— 昨年のワールドカップイングランド大会での日本代表の活躍について

それはうれしかったですよ。とくに南アフリカ共和国戦の日本の歴史的な勝利は心が打ち震えるほどの感動でした。この活躍がきっかけとなって、ラグビーが一過性のブームではなくさらに盛り上がっていくことは、ラグビーに携わる者として、とてもありがたいことだと思っています。また早稲田大学でひとつ下だった同世代の五郎丸歩選手や畠山健介選手の代表での活躍についても、個人的にはかなり良い刺激になっています。



— 2019年のワールドカップ日本大会では、本拠地の岩手県釜石市がラグビーの試合会場になりますね

ふるさと福島を含めた東北地方の震災からの復興を、釜石から世界に発信できる良い機会となると思っています。そのときに自分では何ができるのか分かっていませんが、少しでもお役に立てれば、この地でラグビーに取り組むひとりとしてうれしいことです。そのためにも「釜石シーウェイブス」がトップリーグに昇格することが大切だと思っています。

「花園出場」を果たすため 一日一日を大切に

— 福島高校のOBや後輩の皆さんにメッセージをお願いします
高校、大学、社会人とラグビーを続けてきて、常に感謝していることがあります。それは

試合の観客席からの熱い声援です。特に「オレも福高だ。頑張れよ！」という掛け声には今でも励まされます。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。最後に松井先生、後輩の皆様へ。昨年は福島高校ラグビー部が7人制の県代表として全国大会に出場した経験が大きな自信と誇りになったと思います。我々が成しえなかった「花園出場」を果たすために、一日一日を大切にしながらも、福高生らしく、明るく楽しく頑張ってくださいと思います。

平成28年度 関東梅苑祭・合同同期会

- 日時：5月27日(金)
【受付】18時～ 【開宴】18時半～
- 会場：東京グリーンパレス
＜千代田区二番町2、麹町駅徒歩1分＞

スペシャルゲスト

時代小説家・春吉省吾さん(高21回卒)
※詳しくはホームページをご覧ください。



昨年の総会の様子

みやぎ梅苑会だより

みやぎ梅苑会総会・懇親会開催 Ⅱ 役員改選・全役員留任Ⅱ

平成27年度みやぎ梅苑会総会が9月17日仙台市青葉区のハーネル仙台にて開催された。仕事の都合や昨年に続き生憎の雨模様となった事もあってか直前の欠席連絡が多かったものの会員約60名が集った。

総会は2年振りに中国から帰国された元アナウンサー橋本俊一氏（高21回）の司会のもと、



物故会員に黙祷を捧げた後、鈴木征夫会長（高12回）が「母校はいつまでもたっても懐かしくありがたい存在、同窓会を盛り上げ母校を応援して行きたい」と挨拶し議長席に着いた。

総会は議案として①平成26年度事業報告・会計報告及び監査報告、②平成27年度事業計画案・予算案、③役員改選（鈴木会長以下全員留任）が審議され何れも満場一致で承認された。

恒例の懇親会は母校より田代公啓校長、同窓会本部より川崎眞二会長・今関達也事務局長・西山伸一事務局次長、後援会より黒森陽一会長、関東梅苑会より戸松哲男副会長を来賓にお迎えし開会した。

挨拶に立たれた川崎眞二会長から「在校生の文武両面における目覚ましい活動状況や同窓会としての応援」について、田代公啓校長からは、新校舎での授業開始、SSH生徒研究会発表会での最高賞の受賞、陸上、アーチェリー・剣道・ソフトテニス・

チアリーダー等の活躍や梅苑祭の活躍など生徒の文武両面での活躍の紹介があり「生徒達の頑張りが学校を引っ張ってくれている」とご挨拶いただいた。

各来賓の方々からのご挨拶や、AKAZA会（詳細別掲）立ち上げの紹介、また10名近くの初出席者全員を含む出席者の方々のショートスピーチが、橋本氏の名調子による司会のもと大きな盛り上がりの中で進み、同じ学び舎を巣立った同窓生が互いにテーブル間を大きく移動しながら、世代・職域を超え和気藹々と賑やかに交流が行われた。

合唱部OBの駒場悟氏（高32回）のリードにより出席者全員で校歌を高らかに歌い上げ、最後に今回初出席の90代応援団長佐久間崇裕氏（高41回）の伸びと張りのある声のリードにより全員による応援歌とエールにて熱気は更にヒートアップし一年後の再開を期し盛会裡に終了した。

column

「AKAZA会（士業の会）」発足

福島高校卒業で在仙の弁護士・公認会計士・税理士・社会保険労務士・行政書士・フィナンシャルプランナーなど専門職のメンバーが発起人の声掛けで集まり「AKAZA会」と命名され15人のメンバーで発足しました。会の目的は、

- 福島高校同窓生の専門職の親睦を図り、情報交換とより専門的な交流を行い絆を深める。
- 士業を志す福島高校同窓生のバックアップを惜しまない。
- 福島高校同窓生の問題解決の手助けをする。
- みやぎ梅苑会の発展に貢献する。

というものであり、会の名称は福島生 同窓生であればピンとくる耳覚えのある響き、そして藜（あかざ）は葉が水鳥の足のような形をしていることから、水鳥のように見えないところでの切磋琢磨を怠らない仕事への想いが込められ命名され、同窓会員が相談しやすいよう早速9月17日のみやぎ梅苑会総会で会員にお披露目されました。

殆どのメンバーが総会初出席でしたが、会の発足紹介やメンバー各人のショートスピーチが終わるや否や出席会員から大歓迎の拍手とともに早速の初対面とは思えないコミュニケーションが始まり、総会も大いに盛り上がりを見せAKAZA会としても順調なスタートを切りました。今後の進展が期待されます。





福島高等学校長
田代 公啓

同窓会員の皆様方には、日頃より母校に對しまして物心両面に亘る絶大なる御支援と御協力を賜っており、ますます心より感謝申し上げます。

二十六年八月に新校舎第三・四棟が完成し、昨年三月には校舎第二棟耐震工事が終了し、本年二月には校舎第一棟耐震工事が竣工しました。これにより、震災後続いておりました大規模建設工事が完了しました。今後、グラウンドに埋設されている除染による放射性廃棄物が中間貯蔵施設に移送され、グラウンドが整備されれば震災前の状況に戻ることにとなりますが、生徒たちはようやく手にすることができた落ち着いた学習環境の中で、さらに精進を重ね、逞しく成長してくれるものと考えております。

さて、今年度も生徒たちの活躍はめざましいものでありました。運動部では、まずラグビー部が7人制ラグビーで接戦に次ぐ接戦を制して初めて全国大会に出場し、強豪相手に奮闘しました。近畿地方で開催された全国高等学校総合体育大会には、アーチェリー部が男子個人とともに

女子が念願の団体出場を果たし、陸上部、ソフトテニス部、剣道部も出場するなど、例年にも増して多くの生徒が参加しました。特に陸上部の山下潤君（三年）は200mで第二位、100mで第四位、わかやま国体では100mで第三位という素晴らしい成績を収めました。文化部では、瀬川和磨君（三年）が生物オリピックで第二位となり、応援団チアリーダー部、SS部が滋賀県で行われた全国高等学校総合文化祭に、クイズ研究部が全国高等学校クイズ選手権に出場しました。次年度広島県で開催される全国高等学校総合文化祭には、全国高校新聞年鑑紙面審査賞入賞の梅章委員会、SS部が二部門で出場することになっております。

また、国内外の高校生等の協力を得て外部被ばく個人線量の測定と比較の研究「D-シヤトル・プロジェクト」に取り組んできたSS部放射線班がまとめた論文が、イギリス物理学会が世界の科学者や政府機関に向けて発行する専門誌「ジャーナル・オブ・レディオロジカル・プロテクション」に掲載され注目を集めています。高校生の論文が学術的に認められ、掲載されることは極めて異例のことであり、本校にとってもこの上ない喜びです。

このように生徒たちの活躍の場は年々確実に広がりを見せています。これも文部科学省が推進するSSH

H（スーパーサイエンスハイスクール）事業に取り組んできた大きな成果です。SSH事業の目的は国際的に活躍する有為な科学技術系人材を育成することにあります。SSH事業そのものがキャリア教育であり、本校が取り組む主たる目的は、「梅章の教え」を体現し、「福高での学び」を確立することにあると考えております。本校のSSH事業は次年度が二期目の最終年となりますが、現行の大学入試センター試験に代って平成三十二年大学入試からの導入が予定されている「新テスト」が、SSH事業の成果をもとに打ち出されてきていることも踏まえれば、三期目に取り組むことは必然のことと考えております。平生の授業の充実とは勿論のこと、SSH事業やリベラルゼミ等を通して、未来を担う生徒たちが獲得した知識・技能を活用して課題解決に必要な思考力・判断力・表現力や、主体的に物事に取り組む姿勢を身に付け、しっかりと羽ばたいていくことができるよう教職員一同力を合わせて努めてまいります。

本校の教育活動をさらに充実したものとするためには、会員の皆様のお力添えが不可欠です。今後とも、母校に對するより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

部活動OB会・後援会代表

同窓生の間から、「各部活動で活躍する後輩たちを応援するため、OB会などがあれば教えてほしい」という要望がありました。現在、事務局で掌握しているOB会・後援会の一覧を掲載します。記載のない部活動、または代表者に変更がある場合は、同窓会事務局までご連絡ください。

部活名	代表者名	卒業年度
野球（梅門クラブ）	石原裕人	高校24回
陸上	中田茂美	高校21回
水泳（親泳会）	鈴木興一	高校16回
バスケットボール	萩原義弘	高校14回
ソフトボール	三浦健一	高校42回
ゴルフ（梅謡会）	遠藤武義	高校52回
ハンドボール	高橋雅行	高校24回
山岳（岳友会）	大谷 司	高校14回
バレーボール	木戸孝志	高校17回
ラグビー	武藤 進	高校26回
応援団	金子弘保	高校29回

部活動成績 福高生、全国大会で躍動

【全国高等学校総合体育大会】

- 陸上部……………男子 4×100mリレー
男子 200m(第2位)(山下潤)
男子 100m(第4位)(山下潤)
男子 三段跳び(山下潤)
●アーチェリー部…男子 個人戦(長沼岳)
女子 団体戦
●ソフトテニス部…女子 個人戦(五十嵐温子・関川菜々子)
●剣道部……………男子 個人戦(永倉俊明)
- 【国民体育大会】
- 陸上部……………少年男子A 100m(第3位)(山下潤)

【全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会】

- ラグビー部
- 【全国高等学校総合文化祭】
- 応援団チアリーダー部 パレード部門
- SS部……………自然科学部門

【全国高等学校クイズ選手権】

- クイズ研究部
- 【生物学オリンピック】
- SS部……………金賞(第2位)(瀬川和磨)

【全国高校新聞年間紙面審査賞】

- 梅章委員会……………入賞
- 【SSH】
- 「Journal of Radiological Protection」への論文掲載
SS部放射線班「D-shuttleプロジェクト」
- 科学・技術論文野口英世賞
個人研究の部……………入選(佐藤駿人)
[真性粘菌の光および酸に対する回避反応について]
共同研究の部……………最優秀賞 SS部生物班「好適環境水チーム」
[好適環境水下水での魚の生理学的変化の解明2]

進学展望

進路希望の動向
「津々浦々に咲き誇れ、梅の花！」

平成二十八年度の大学入試センター試験は、新学習要領への移行に伴い、昨年の数学と理科に続き英語、国語、地歴・公民が新課程に移行したが、数学や理科のようない出題分野や実施方法に変更がなく、出題内容についても既に数年前から新課程を意識した出題が取り入れられていたこともあり、多少の新傾向は見られたものの、生徒達に混乱は見られなかった。

志願者数は五六三、七六八名と、十八歳人口の減少にもかかわらず、昨年より五千人程度増加したのは、大学進学率やセンター試験の利用率の上昇によるものと考えられる。特に、既卒生の受験者数が減少したのと対照的に、現役志願者数は七千人程度増加した。志願者数、受験者数ともに減少した。

全国の科目別平均点では、昨年、大幅に上昇した国語がさらに十ポイント程度上昇した。数学は昨年低かった数学Ⅱ・Ⅲが上昇し、数学Ⅰ・Ⅱがダウンした。理科では文系生の受験が中心となる基礎科目は上昇したが、化学が八点はドダウンしたため、理系生は理科で得点できなかったと感じる生徒

が多いのではない。多くの国立

大で必要となる七科目の平均点は、文系型で六点程度の上昇、理系で

四点程度のダウンが見込まれる。

そのような状況のなか、本校の三年生は文系型、理系型とも七十点程度上回る健闘を見せた。

本校における国公立大の志願動向だが、旧帝大を中心とした難関大学や地域拠点大学への出願もほぼ例年通りだった。具体的な出願数については、下記の「入試出願状況」に示す。

旧帝大をはじめとする難関大学への出願数は昨年よりもやや減少した。東北大の前期の出願は、急増した昨年より十二名減少し、五十五名となったが、ここ五年の中で見れば、増加傾向にあるといつてよい。福島大学は前期で三十名の出願で昨年より七名増、福島県立医科大学の医学部は前期で九名。山形大の出願が例年より増加した。

福高の精神である「世の為に」の実現に向け、全国津々浦々に美しい梅花を咲かせてもらいたい。

入試出願状況（現役の延べ数・推薦、AOは含まない） 2月7日現在

項	大学名	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年
国公立大	北海道大	16	15	13	12
	岩手大	6	6	3	10
	東北大	75	95	69	67
	山形大	34	6	20	17
	福島大	89	63	72	48
	茨城大	17	12	13	5
	筑波大	12	12	22	32
	宇都宮大	3	5	10	14
	埼玉大	13	9	18	20
	千葉大	29	18	36	36
	東京大	10	18	16	22
	東京外語大	3	0	5	2
	東京工業大	3	6	4	4
	一橋大	0	6	7	8
	横浜国立大	8	6	9	8
	新潟大	27	34	32	24
	京都大	6	5	8	10
	その他	44	81	53	68
私立大	県立医科大	28	49	56	48
	県立会津大	1	1	0	3
	高崎経済大	6	9	8	3
	その他	40	33	19	31
	東北学院大	15	3	12	13
	青山学院大	14	23	17	31
	慶應義塾大	14	30	25	20
	上智大	8	2	5	5
	中央大	65	64	42	56
	東京理科大	28	24	21	20
	日本大	26	18	18	24
	法政大	51	48	39	60
国立大学合計	明治大	66	63	74	93
	立教大	19	50	37	61
	早稲田大	40	69	64	67
	その他	269	253	253	262
	国立大学合計	395	397	410	407
	公立大学合計	75	92	83	85
	私立大学合計	615	647	607	712
総計		1,085	1,136	1,100	1,204

大学合格者数（過年度卒を含む）

項		平成 27年	平成 26年	平成 25年	平成 24年	
合格者数	国公立大	北海道大	10	6	9	5
		岩手大	2	4	3	8
		東北大	41	37	26	25
		山形大	12	10	10	9
		福島大	24	21	19	24
		茨城大	4	2	3	2
		筑波大	6	9	7	6
		宇都宮大	0	4	7	2
		埼玉大	5	6	6	12
		千葉大	7	15	14	15
		東京大	5	6	3	0
		東京外語大	2	1	0	2
		東京工業大	0	5	2	1
		一橋大	0	5	3	1
		横浜国立大	2	6	4	6
		新潟大	13	15	9	14
		京都大	3	4	1	2
		その他	26	22	21	17
		県立医科大	15	24	17	27
		高崎経済大	3	4	1	1
		その他	11	5	16	15
	小計	29	211	181	194	
	私立大	慶應義塾大	14	15	10	6
		早稲田大	20	27	28	22
		中央大	42	41	27	38
		明治大	31	39	48	55
		法政大	25	41	19	18
		立教大	15	17	40	19
		日本大	12	13	17	8
		東北学院大	5	13	5	20
		同志社大	3	7	2	2
		その他	262	239	251	235
		小計	429	452	447	423
	準大学	1	2	1	1	
	短期大学	1	3	1	2	
	各種学校	0	0	0	0	
	合計	622	668	630	620	
就職	0	0	1	0		

寄贈図書紹介（平成27年1月～12月）

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）
27.01.30	日本経済がわかる経済学	菊本義治、他	阿部太郎 （福高45回卒）	27.09.14	逆転の読書 読書放浪記	西島建男	西島建男
27.01.30	私にとっての加藤周一	白沙会	阿部太郎 （福高45回卒）	27.09.14	zero	広田修	広田修 （福高51回卒）
27.01.30	1からの経済学	中谷武、中村保	阿部太郎 （福高45回卒）	27.09.14	モヤモヤした心の根っこに希望の針はさ さりましたか？	内田玲子	内田玲子事務局
27.01.30	在日外国人と多文化共生	佐竹眞明	阿部太郎 （福高45回卒）	27.09.14	筑波大学by AERA		鈴木浩一
27.01.30	問いをつくるスパイラル	日本図書館協会	福島県高等学校司 書研修会	27.09.14	筑波大学新聞で読む筑波大学の40年	福原直樹、 伊藤純郎	鈴木浩一
27.01.30	ビブリオバトル入門	ビブリオバトル 普及委員会	福島県高等学校司 書研修会	27.09.14	プロフェッショナル英和辞典スピードテラ	堀内克明、他	鈴木浩一
27.02.27	平将門 上	童門冬二	福高図書部	27.09.16	言葉が独創を生む 東北大学ひと語録	阿見孝雄	阿見孝雄 （福高16回卒）
27.02.27	平将門 下	童門冬二	福高図書部	27.09.16	言葉に心の声を聞く	阿部宏	東北大学大学院
27.03.20	エデン	近藤史恵	福高職員	27.09.16	桃天と風漂と	菊地辰幸	岡崎医療
27.03.20	甘い水	東直子	福高職員	27.09.16	ふくしま道德教育資料集 全3集	福島県教育委員会	福島県教育委員会
27.03.20	マボロシの鳥	太田光	福高職員	27.09.16	ふくしま道德教育資料集 第Ⅲ集	福島県教育庁義務 教育課	福島県教育委員会
27.03.20	ヨーロッパの歴史 I	草光俊雄、 基野尚志	基野尚志 （福高28回卒）	27.10.01	アリスのままで	リサ・ジェノヴァ	図書部選書実習
27.03.20	目指せMIT	日本MIT	日本MIT	27.10.01	給食のおにいさん	遠藤彩見	図書部選書実習
27.05.28	海洋白書 2015	海洋政策研究財団	海洋政策研究財団	27.10.01	給食のおにいさん進級	遠藤彩見	図書部選書実習
27.05.28	オーロラの謎	佐藤夏雄、門倉昭	国立極地研究所	27.10.01	給食のおにいさん卒業	遠藤彩見	図書部選書実習
27.05.28	冬の櫻 上	春吉省吾	佐藤祥一 （福高21回卒）	27.10.01	弁天の夢	矢野隆	図書部選書実習
27.05.28	冬の櫻 下	春吉省吾	佐藤祥一 （福高21回卒）	27.10.01	世界泥棒	桜井晴也	図書部選書実習
27.05.28	脳は楽観的に考える	ターリ・シャー ロット	福高職員	27.11.26	B型肝炎	奥泉尚洋	全国B型肝炎訴訟 原告団
27.05.28	時の番人	ミッチ・アルボム	福高職員	27.11.26	南からの世界史	佐々木寛	佐々木寛
27.05.28	ホケツ！	小野寺史宜	福高職員	27.11.26	熱なき光	星野剛	星野剛
27.06.22	やさしい政治家	宇恵一郎	自民党国会稲門会	27.11.26	入試に役立つ小論文のポイント	聖学院大学	聖学院大学
27.06.22	文化理解のキーワード	東北大学大学院 文学研究科	東北大学大学院文 学研究科	27.11.26	世界が広がる「小さな怒」の101冊	福島県双葉郡教育 復興ビジョン推進 協議会	福島県双葉郡教育 復興ビジョン推進 協議会
27.06.22	カタカナノキモチひらがなのころ	睦月祥	睦月祥	27.12.28	自治体職員のためのようこそ地方自治法	板垣勝彦	板垣勝彦 （福高51回卒）
27.06.23	がんばらない、他9冊	鎌田實	文化講演会	27.12.28	夏の燐火 上	春吉省吾	佐藤祥一 （福高21回卒）
27.06.23	集英社文庫100冊		文化講演会	27.12.28	夏の燐火 下	春吉省吾	佐藤祥一 （福高21回卒）
27.08.06	福島成蹊百年史	福島成蹊学園	福島成蹊高等学校	27.12.28	経営の嘘	佐藤祥一	佐藤祥一 （福高21回卒）
27.09.14	Something Nice	金子みすゞ	金子みすゞ記念館	27.12.28	アメリカの高校生が学ぶ経済学	ゲーリー・E. フ レイトン	大和証券
27.09.14	七五調源氏物語	中村博	中村博	27.12.28	どがんね 古賀常次郎詳伝	佐保圭	佐賀県更生保護協 会
27.09.14	資本制経済の基本法則	柳田洋吉	柳田洋吉				
27.09.14	社会制経済の原理	柳田洋吉	柳田洋吉				
27.09.14	アンネ・フランク・ハウス	アンネ・フランク ・ハウス	アンネ・フランク 財団				

（その他多数の寄贈図書をいただきました）

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成27年度 同窓会役員

会長	渡辺 健寿	高17回
副会長	鈴木 征夫	高12回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	二階堂 晋一	高16回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	片平 恵子	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	齋藤 登	高12回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 禮司	高15回
常任理事	佐藤 守	高16回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	歌川 和夫	高17回
常任理事	熊坂 英二	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回
監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 豊	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回

理事	渡辺 博実	高17回
理事	横山 純	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	斎藤 高紀	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	伊藤 幹夫	高20回
理事	網代 智盟	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	佐々木 孝司	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	木村 豊	高22回
理事	菅野 日出喜	高23回
理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	穂積 寿男	高23回
理事	高橋 雅行	高24回
理事	渋谷 修一	高24回
理事	渡邊 誠	高25回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回

理事	土屋 牧雄	高26回
理事	丹治 正博	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	五十嵐 俊道	高28回
理事	加藤 勇治	高29回
理事	金子 弘保	高29回
理事	土田 淳	高29回
理事	島田 久	高31回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回
理事	太田 英晴	高31回
理事	樋口 幸一	高32回
理事	藤野 貴	高32回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	手塚 徹	高34回
理事	鈴木 宏幸	高36回
理事	阿久津 順二	高37回
理事	黒森 陽一	高37回
理事	三浦 康伸	高39回
理事	日下 直哉	高39回
理事	引地 孝之	高44回
理事	吉田 大樹	高45回

平成27年度 同窓会事務局員

田中 訓樹	高22回
後藤 史郎	高23回
須藤 鑑	高26回
朽木 隆	高27回
大橋 良一	高27回
今関 達也	高28回
国分 聡	高33回
西山 伸一	高35回
佐藤 富浩	高36回
丹治 崇	高36回
渡邊 兼綱	高36回
佐藤 隆夫	高37回
本多 信弥	高40回
田中 幹大	高46回
松井 暢彦	高53回
笹原 麻里菜	高60回
橋本 健一	高60回

同窓会事務局（福島高校内）

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392

みやぎ梅苑会事務局

〒981-0923 仙台市青葉区東勝山二丁目22-6
TEL.022-275-2887（落合 敏伸）

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358（渡邊 誠）
<http://www.kantobaienka.ne.jp/index.html>